



2015

11

Bulletin

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2015 - 16 会長主題

一人ひとりが賜物。もっと発酵、もっと発信！

あずさ部長	標 克明 (甲府)	「ワイズメンとして一歩前進」
東日本区理事	渡辺 隆 (甲府)	「原点に立って、未来へステップ」
アジア地域会長	Edward K. W. Ong (シンガポール)	“Through Love, Serve” 「愛をもって奉仕をしよう」
国際会長	Wichian Boonmapajorn (タイ)	“Mission with Faith” 「信念のあるミッション」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上妻英夫 / 書記 鈴木田通夫 / 会計 尾内昌吉・金本伸二郎
直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功徳文夫 / 担当主事 沖 利柯

2015年11月
山手・サンライズ・たんぽぽ 合同例会
＜ワイズ理解・ファミリーファストの月＞

と き 11月17日(火) 18:30～20:30
と ころ 山手センター 101号室

受付 たんぽぽクラブ
＜司会 サンライズ 小山久恵さん＞

第1部 例会セレモニー
開会点鐘 山手 浅羽会長
ワイズの信条・ワイズソング 一同
聖句朗読・祈祷 山手 飯島隆輔さん
ゲスト・ビジター紹介 3クラブ会長
標 あずさ部長挨拶
YMCA 報告 沖山手センター館長

第2部 ジャズと交わりの夕べ
＜司会 たんぽぽ 小原史奈子さん＞
ジャズ演奏(第1ステージ)
会 食・懇談 一同
ニコニコ 一同
ハッピーバースデー たんぽぽ 服部会長
ジャズ演奏(第2ステージ)
諸報告 担当メン
閉会点鐘 サンライズ 大谷会長

ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう
義務はすべての権利に伴う 』
“ To acknowledge the duty
that accompanies every right ”

今月の聖句

だから、わたしとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです。

コリントの信徒への手紙 I 9章 26, 27 節

10月報告

会員在籍数		18名
例会出席者	メ ン	15名
	メネット	一名
ゲスト・ビジター		6名
会員出席率		83%
ニコニコ	9,080円 (累計 30,784円)	
B F 切手	—kg	外国切手—kg

11月 HAPPY BIRTHDAY

中村孝誠さん	4日	福村佐和子さん	10日
沖 利柯さん	17日	青鹿博明さん	25日
上妻英夫さん	30日		



10月例会 報告

日時：10月20日（火）18時30分～20時30分
場所：山手センター101号室

出席者（敬称略）：

メンバー：浅羽、上妻、飯島（隆）、飯野、尾内（昌）、
沖、金本、功能、鈴木田（通）、鈴木田（祐）、
田尻、戸坂、中村、増野 14名

ゲスト・ビジター

本多 誠さん（卓話者、諏訪町会会長、戸塚地区協議会議長）

松村宇久馬さん（諏訪町会総務部長）

菅波 健さん（浅羽会長ご友人、元戸塚出張所長）

神谷幸男さん（東京西クラブ）

小原史奈子さん（東京たんぽぽクラブ）

金居有香子さん（山手センターコミュニティー委員・元山手リーダー）

合計 20名

司会 増野さん。10月は大勢のお客さまをお迎えして活気のある会になりました。ハッピーバースデーは飯野さんを祝いました。山手クラブに転会して2年、皆さんにあたたかくしていただいて感謝です、と述べました。楽しい歌は、鈴木田祐子さんの選んだ「紅葉（秋の夕日に）」とズンゴロ節の2曲を戸坂さんのピアノで歌いました。

山手センターの所在地の現町名は「西早稲田2丁目」ですが、旧町名は「諏訪町」でした。その町名が今も地区の名称として残っていて、町会も

「諏訪町会」が活動しています。10月はその諏訪町会の会長としてまた戸塚地区協議会の会長としてご活躍の本多誠さんをお招きして、地域活動について貴重なお話しを伺うことができました。

<本多誠さん「地域活動：私の体験から」要旨>

私の山手センターとの関係は、月1回ここで開かれている「わくわくクラブ」に参加して歌を歌ったり、体操をしたりすることで始まりました。昭和12年生れで昭和21年に親の転勤で諏訪町に引っ越してきて地元の戸塚第1小、戸塚第1中で学びました。日産自動車を定年退職後、諏訪町会の会長になりました。

震災が頭から離れません。高齢社会で町内会も役員は高齢者です。町会長の仕事は区の仕事のお手伝いと多文化共生のお手伝いです。新宿区の居住者の1割は外国人ですが、住んでいても町会員になっていない人が多いです。

地元の戸塚地区町会連合会と戸塚地区協議会が共同で「戸塚地区災害支援ネットワークを考える会」を立ち上げ、自分たちの町を知ろう、直下型地震がきたらどうするかということを考え、「活動ニュース」を発行しています。また新宿区や早大佐藤滋研究室と共同して被災した場合の「協働復興模擬訓練」を実施しました。諏訪町会は佐藤研究室の協力で「諏訪町防災マップ」を作成し町の狭隘道路など避難時のウイークポイントを明示しました。今、町の底力はなくなっています。お祭りの神輿かつぎもいません。防災の取り組みは始まったばかりです。震災時には情報を正しく伝達すること、そのためにもご近所の支え合いが大

事です。

本多さんのお話の後、**諏訪町会総務部長の松村さん**からもお話がありました。「町会の役割として防災と防犯が大きなウエイトを占めるが、住民の助け合いの力が希薄化している。顔がわかる、顔が見える関係にしたいが、町会の組織率は下がり、入ろうともしない人が多い。」とのことでした。

また、**元戸塚出張所長の菅波さん**からも行政の対応として、「①災害時に学習院内の深井戸の開放、②災害弱者名簿の整備、③避難所の開設、④医療施設をもつ避難所の設置（戸二小内）、⑤医療関係者名簿の整備、⑥認知症者の会、グループホームのネットワーク」が有事の備えとして必要であるというお話がありました。

この後、出席者との間で意見交換があり、その中で本多さんから、○災害時に3時間生き残るための情報ネットワークを作る。○子供の危険予知能力が物凄く弱くなっている。子供たちから防災訓練をしていく。○災害時の外国人ネットワークづくりに取り掛かっている。○町会費は1世帯月200円、アパートは100円、マンションは管理組合がまとめて払う。というご説明がありました。

ご持参頂いた、資料の中に、諏訪町防災マップがあり、それを見ると、山手センターの前の通りは早稲田通りから諏訪通りに抜けて西早稲田中学（一時避難所）につながる安全な避難路とされています。しかし、ふだんでもこの道は車の抜け道になっているようです。山手センターに集まる子供たちの通行の安全確保が必要ではないかと思いました。

(まとめ・功能)

.....

山手センターのバザー

中村孝誠

例年の如く山手コミュニティ委員会で昨年の反省を参考にリーダーや職員が今年のバザーに就いて検討を重ね、主題「YMC A山手の祭り」副題「来て観て遊んで」と題し10月18日(日)快晴のなかオープンしました。献品市の整理券40枚が配られオープンを待つ行列ができました。今年は目玉となるような献品が少なく売上げが気になっていましたが、リーダー達の事前活動もあり子供とその父兄の参加が多くみられ、子供の衣料品の販売に繋がり、結果として昨年の実績をオーバーしました。また東北物産品の販売には増野ワイズも若い



女子高校生に混じり頑張って販促を行っていました。

16チームが各ブースを設け、それぞれ昨年の経験を生かし、工夫と努力により楽しい活動へと務めていたので、来場者も楽しんでいたように思われます。今回はあずさ部部会と重なってはいましたが、山手ワイズクラブからは功能さん、増野さん、青鹿さん、鈴木田夫人、飯野さん、そして星野夫人が応援に駆け付けて下さり、私を含め総勢7名の参加となりました。山手クラブが応援している学舎のカレーは好評でしたが、完売することが出来ず舎生の夕食となったことでしょうか。恒例の子供達が期待している抽選会も盛り上がり一喜一憂の時を過ごし、これを以てバザーは終了。その後片づけを終えて、今回の振り返り会が行われ、各チームより活動状況の発表、成果に就いては事務局より以下の発表がなされました。

総売り上げは約82万円で昨年より減少していましたが純利益は約65万円で昨年の実績を上回りました。沖館長よりバザーの成功のねぎらい及び益金の使途に就いての説明がなされ、事故もなく大変楽しい1日となりました。なお献品市の売り上げは全てが純益となる為今後も献品の種類・収集が大きな課題であり、また抽選券の事前販売の工夫、地域住民へのPR方法等まだまだ多くの課題が残っているように思います。



10月ヨルダン会 報告

10月28日(火) 13:30~

山手センター 102号室

出席：浅羽、尾内、沖、功能、鈴木田、中村
増野 7名

1、ブリテン<<私の福島・フクシマ>>の執筆

予定：11月号 鈴木田 12月号 功能

1月号 尾内

2、会計報告(尾内)

3、11月、山手・サンライズ・たんぽぽ合同例会
役割分担

会場は101号室、ジャズメン2名が演奏、

受付・会計：たんぽぽ

食事手配：山手(浅羽)

ワインと容器：サンライズ

会場設営・備品設置・音響・クラブバナー：

早く来館したメン全員で当たる

集合写真：飯島

会費：1500円(山手参加者分は尾内会計が
人数分を全額一括立替払いし、別途
1人1,000円を徴収する。)

ニコニコ：テーブルの島ごとに袋を用意して
回す。東京Yの東日本大震災支援
に寄付する。

プログラム：第1部 例会セレモニー

第2部 ジャズと交わりのタベ

集合写真と後片付け(全員)

二次会：伊丹亭、自由参加

報告・感涙のあずさ部会

鈴木田通夫

第19回あずさ部部会は甲府クラブのホストにより、10月18日(日)14:00-18:30、山梨県防災新館及びホテル談露館にて開催された。参加者は107名、渡辺隆理事、利根川恵子次期理事、田中博之直前理事、標(しめぎ)克明部長、浅羽俊一郎次期部長、望月勉直前部長をはじめ区、部、クラブの役員、メンバーが多数集まり、にぎにぎしき部会が行われた。

部会は第1部式典、第2部記念講演、第3部懇談会とアピールタイム、が恒例の順序で進められた。中でも、武蔵野多摩クラブの尽力によりモンゴルにクラブが誕生し、またあずさ部のメンバーが前年度末から増加していることが

認められ、望月直前部長に国際本部からエルマールクロー賞が授与されたことは、あずさ部として嬉しいことであった。第3部の懇談会では、心づくしの料理が提供され楽しいひと時を過ごした。アピールタイムでは2016年6月4日、5日に開催される東日本区大会の案内がされたが、これをホストされるあずさ部の一番若い長野クラブに絶大なる拍手が送られた。

さて、第2部の記念講演は「モノづくりを通しての国際貢献」と題して、(株)日建の雨宮清代表取締役からお話を頂いた。氏の母上は学校の教師であり、氏は若い時に母上から「人のためになる仕事をしなさい」といわれたその言葉を今も胸に抱いて仕事をしている。その仕事とは、氏のご自分の工場で作った機械で地雷を爆発させて地上から地雷を減らすことをなしている。地雷は過去の戦場、現在の戦場に今も幾千万個存在しており、その土地に住んでいる人々の命が危険に晒されている。従って氏は自らヘルメットをかぶり、自ら命をかけて一つ一つを爆破させ、一つの村、一つの村と地雷のない大地を作っておられる。村人たちは安心して農業に精を出し、子供たちは安心して村の学校に通い、ボール蹴りをし、笑顔が戻っている。爆発の様子や村人、学校の子供たちの映像を見せての話。聞いているワイズメンバーの目には熱いものがこみあげていた。雨宮氏はテレビ、ラジオ、新聞に度々出ておられ、工場は南アルプス市にあり、ご本人だけでなく工場従業員一人ひとりにも氏の心が伝わっており、この工場を訪ねた標部長もこのことを紹介する時に涙がこみ上げておられた。

ワイズ歴50年を超える筆者にとって、今回の部会のように心を打たれた部会はなかったのではなかったかと思う。

山手からは浅羽、尾内、鈴木田の3名が参加。



福島よいとこ 幾度でも

鈴木田通夫・祐子

学生の頃まで列車でただ素通りだった福島県に会社員になって初めて訪れたところは、高湯温泉のスキー場と猪苗代のスキー場。高湯の時は一日中雪、従って良い印象はなし。猪苗代はいつも晴天、広々としたスキー場は素晴らしく、元気ならばまた行ってみたいスキー場である。

高校時代のクラブ活動は天文部、北海道北見市の郊外では天の川がくっきり見えるところ、いやが上にも宇宙に心が向けられる。安達太良山に近い岳温泉に行ったとき、夜空を見上げると圧倒される程の満天の星、外は寒かったが暫くじーつと見つめたことが今も目の奥に残っている。大内宿は外見は昔風の建物であったが1階は商魂たくましい景色にああそうだったのかと、それに反し全くの過疎地、昭和村の廃校となった小学校を村の図書館にと、私の高校時代の同級生の主人は文化人類学者、その方の超大量の図書を寄贈され、それを見に行った時のことも思い出深い。私の教会の年配者の年一回の旅行会で会津に行った。喜多方ラーメンを頂き、檜原湖めぐり、五色沼周囲の散策、野口英世記念館訪問、その中に野口の若い時、会津若松教会で洗礼を受けた書面が展示されていた。牧師の高橋力師はワイズメン、東神大で学んでいた頃は学長の桑田秀延氏の心を痛める学生であつたらしいが、今は日本基督教団の東北地区で大活躍する程の方となっている。

福祉の分野ではキングス・ガーデン連合に繋がる施設が多くあり、福島地区をまとめている野田氏は甲子園へほとんど毎回出場している聖光学院にも関わっている。

津波に関しては、訪れた塩屋埼は歌に歌われる情緒はなかった。津波で美空ひばりを記念するものは流されてしまったと。また、福島から東京四谷の親戚に逃れてきた方の話、とにかく津波は真っ黒、高台へ逃げろの叫び声に普段とぼとぼ歩いてきた方がなんとびっくりする程の速さで走ったと。逃げる道は大通りでなく、なるべく細い裏通りを逃げて、と。

福島は良いところが一杯。沢山の人々が訪れて福島県が早くもっと元気になって下さることを祈ります。

<上妻英夫さん> 「十六夜 (いざよい) の月に誘わるカメラ達」小生の側に富士見橋 (線路高架橋)、以前は富士山も見られたが今は駄目、数名のカメラマンが月にカメラを向けていた。

陰暦8月15日夜の月は名月、16日夜の月は十六夜 (いざよい) の月、17日夜の月は立待 (たちまち) 月、18日夜の月は居待 (いまち) 月、19日夜の月は臥待 (ふしまち) 月

と、なかなか優雅な月の呼び名です。

<鈴木田通夫さん・祐子さん> ○私どもの教会の牧師の父上は若い頃、武蔵野YMCAのリーダーでした。今は筑波大学で教育の仕事や講演の仕事をしています。○今度の茨城県常総市の洪水で、私の関係している老人福祉施設の姉妹施設がその常総市にあります。かろうじて災害をまぬかれました。

<浅羽俊一郎さん> 10月卓話をされた本多町会長とは新宿区主催の多文化防災ネットワークでお近づきになりました。地元の住民のことを真剣に発言されていました。山手センターについて地元の人達は敷居が高い、と思っているとのこと。地元との関係強化のためにも今後ご協力願いたいものです。

YMCAニュース

▼ストックウォーキング体験会 参加者募集

山手センターでは、コミュニティー活動の一環として、誰でも楽しみながら健康づくりや仲間作りが出来る『ストックウォーキング』の体験会を実施します。この運動を地域に普及をしていきたいと思っておりますので、是非ご参加いただき、ご協力いただければと思います。

日時 11月15日 (日) 13:30~17:30

場所 山手センター近郊

参加費 2,000円、レンタルストック 500円

*ウォーキングに適した服装、両手の空くバック、薄手の手袋、飲み物、雨具を持参下さい。

申込 03-3202-0321 (山手センター)

締切 11月9日 (月)

(次ページに続く)

(YMCA ニュース続き)

▼山手バザー 有難うございました。

10月18日の山手バザーにご協力いただきありがとうございました。当日は晴天に恵まれ、朝から献品市に並ぶ方も出て、盛況のうちに終わることが出来ました。当日の益金65万円(昨年54万円)は山手センターのボランティアリーダー養成に多くをういさせていただきます。その他、東日本大震災復興募金、国際協力募金などにもういさせていただきます。



▼山手会員クリスマス 予告

今年のクリスマスは12月6日(日)18時より開催いたします。詳細は後日お知らせします。

(沖 利柯)